

三重の森からCO₂吸収プロジェクト

中勢森林組合 J-クレジット制度への取組み

1. J-クレジット制度とは
2. 中勢森林組合J-クレジットの概要
3. J-クレジット販売までの流れ
4. 森林の多面的機能
5. 林業のサイクル
6. 森林組合、そして、中勢森林組合とは
7. 津市の森林の概要と特徴
8. 津市の森林の現状
9. 中勢森林組合の使命と課題
10. J-クレジット・プロジェクト取組みのきっかけ
11. 林業のサイクルとCO₂吸収、そして、適切な森林管理とは
12. J-クレジット販売益の用途
13. 中勢森林組合の取組み－事業概要－
14. 中勢森林組合の取組み－ネットワーク－
15. 地域の森林を持続的に保全するために
16. 中勢森林組合“三重の森からCO₂吸収プロジェクト”

1. J-クレジット制度とは

J-クレジット制度とは、省エネ・再エネ設備の導入により排出削減されたり、森林管理により吸収されたりしたCO₂等の量を認証し、認証分のクレジットを発行する国の制度です。

わたしたちは生活するうえでCO₂を出しています。

日本で1家族が1年間生活すると約**4,480**キログラムのCO₂が出ているそうです。

たとえば火力発電所で電気をつくる時もCO₂が出ています。

これを「なかったこと」にするには…CO₂を吸ってくれるスギの木**509**本が必要です。

ほかにCO₂をへらす取組もあります。

カーボン・オフセットは、**出してしまうCO₂**を**へらしたCO₂**で「なかったこと」にするひき算の仕組みです。

たとえば… **+5**キログラム **-5**キログラム = **±0** オフセット

カーボン・オフセットして変えよう！
温暖化が進む**地球をまもろう！**

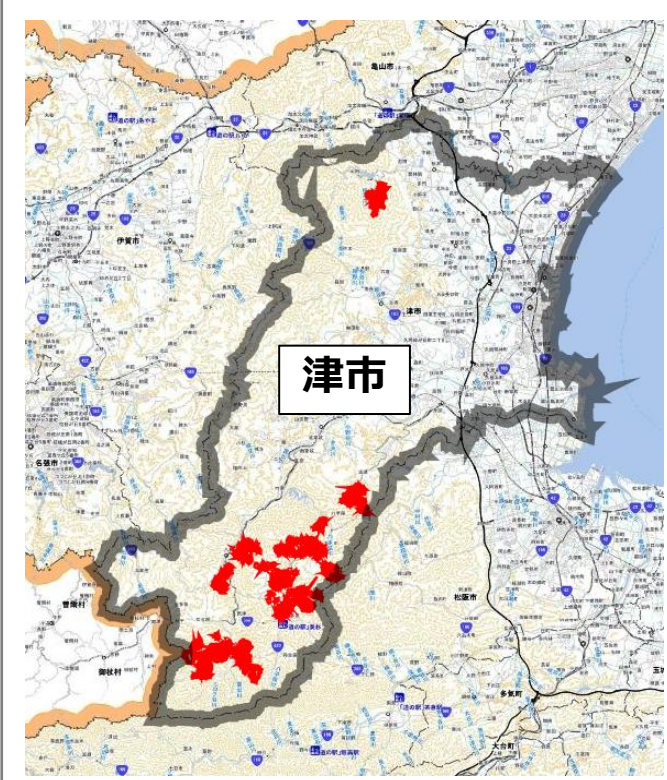
2. 中勢森林組合 J-クレジットの概要

方法論	森林経営活動 (FO-001)
プロジェクト名	第1期 三重の森からCO ₂ 吸収プロジェクト
プロジェクト登録	2024年11月
認証対象期間	2024年から2034年
創出予定の総量	約70,000トン-CO ₂
初回クレジット創出予定	2026年8月 (約7,700トン-CO ₂)



創出地域

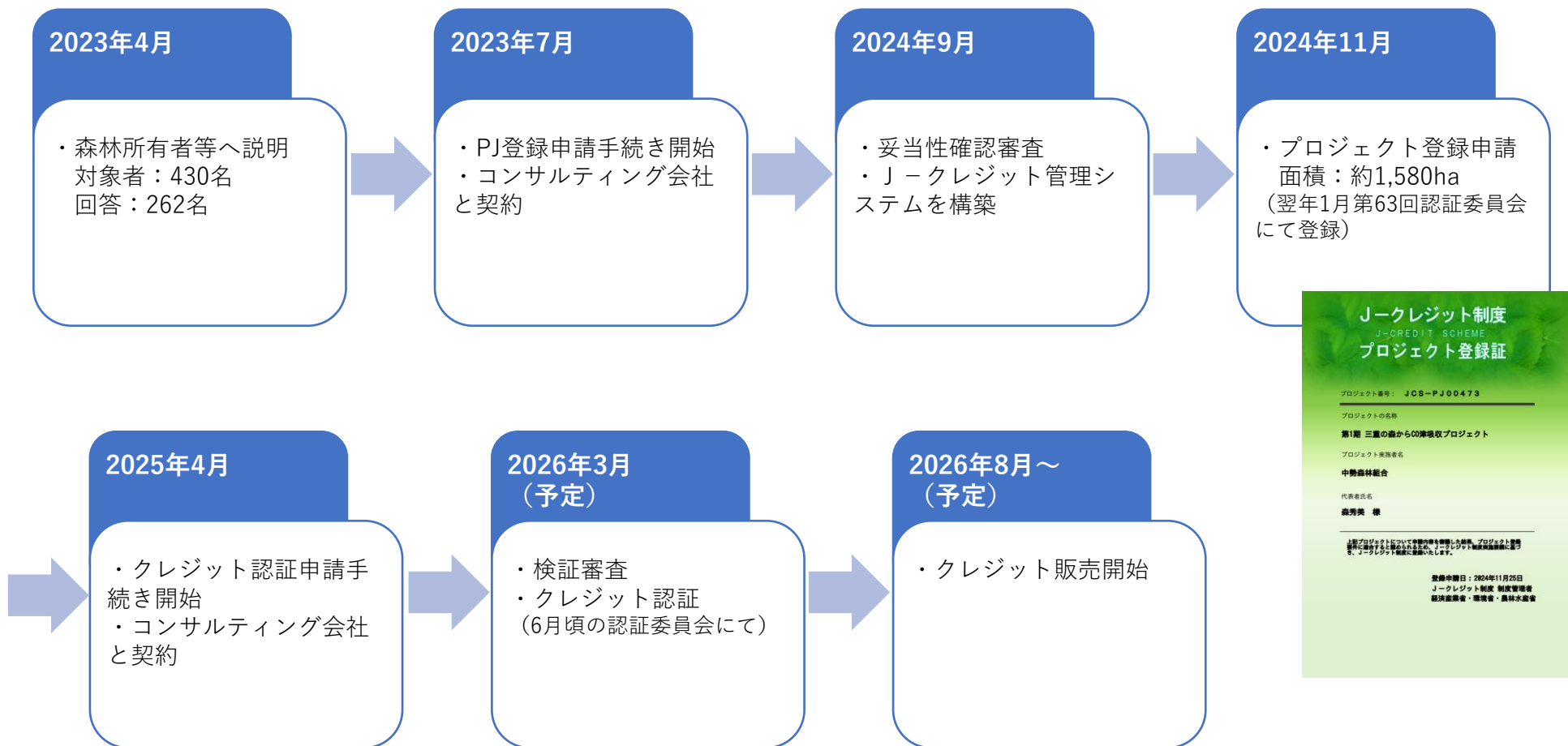
津市 芸濃町河内・美杉町八知・美杉町川上
・美杉町下多気・美杉町下之川・一志町波瀬



A detailed map of the project area in Tsu City, Mie Prefecture. The city boundary is outlined in grey, and several specific project sites are marked with red flower-like icons. A label "津市" (Tsu City) is placed over the city area. The map shows major roads, rivers, and surrounding municipalities like Ise City and Maibara City.

森林所有者約260名のご同意のもと
約1,580haを登録

3. J-クレジット販売までの流れ（予定を含む）



4. 森林の多面的機能

森林には多面的な機能があり、わたしたちの生活にも様々な恩恵をもたらします。



森林の持つ多面的機能と貨幣評価

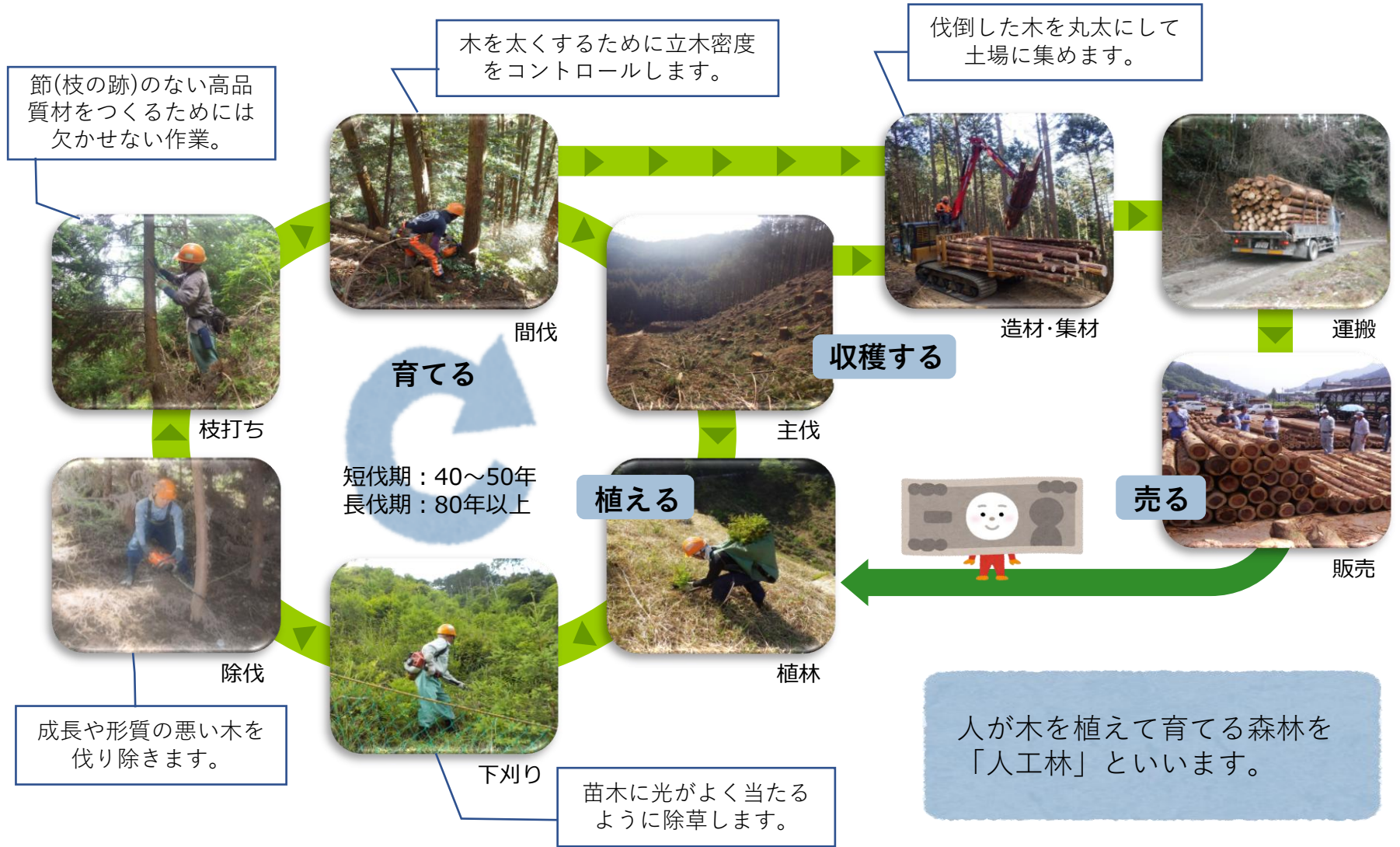
森林の持つ機能	評価額
表面侵食防止	282,565億円
水質浄化	146,361億円
水資源貯留	87,407億円
表層崩壊防止	84,421億円
洪水緩和	64,686億円
保健・レクリエーション	22,546億円
二酸化炭素吸収	12,391億円
化石燃料代替エネルギー	2,261億円
合計	702,638億円

※木材・きのこ等の物質生産機能や生物多様性保全機能等を除く

出典：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業および森林の多面的機能の評価について（答申）」

5. 林業のサイクル

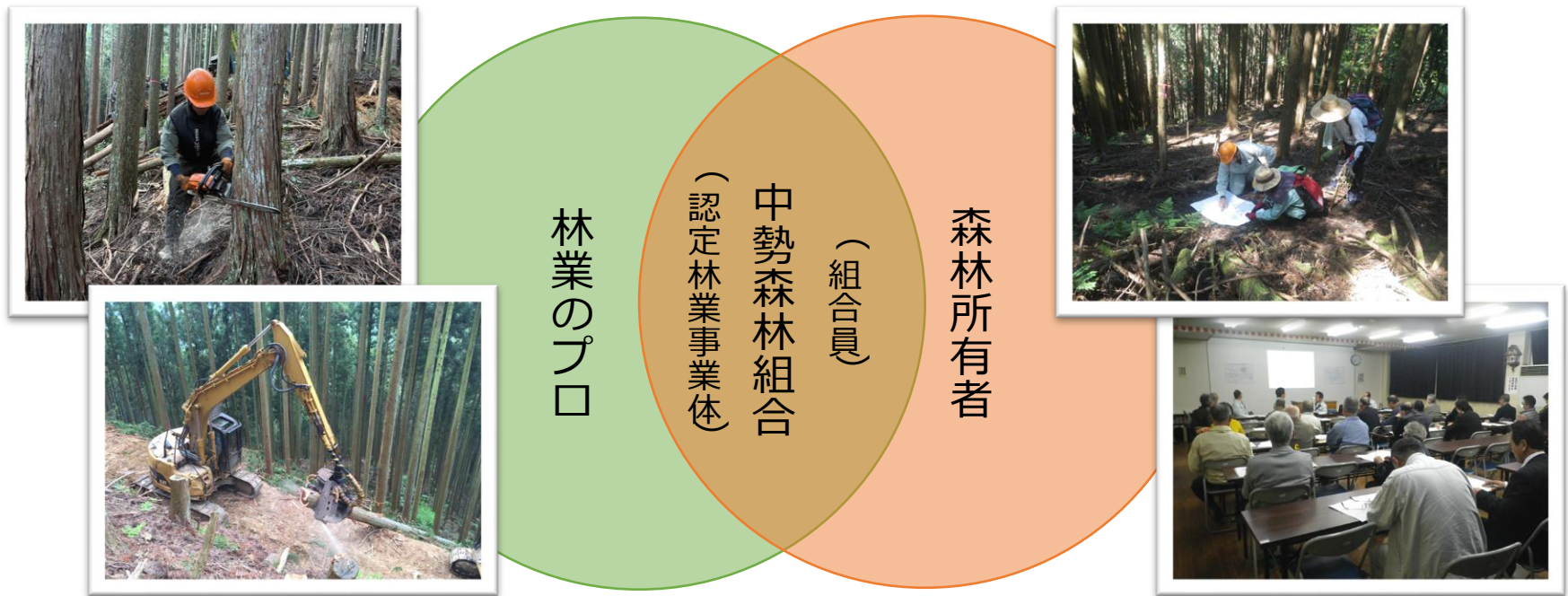
林業は、長い時間をかけて「木材」という商品をつくるものづくりの仕事です。



6. 森林組合、そして、中勢森林組合とは

森林組合は、森林組合法によって設立され、森林所有者が組合員となって組織されている共同組合です。

林業のプロフェッショナルの中でも、森林所有者と強くつながっているのが、森林組合の強みです。

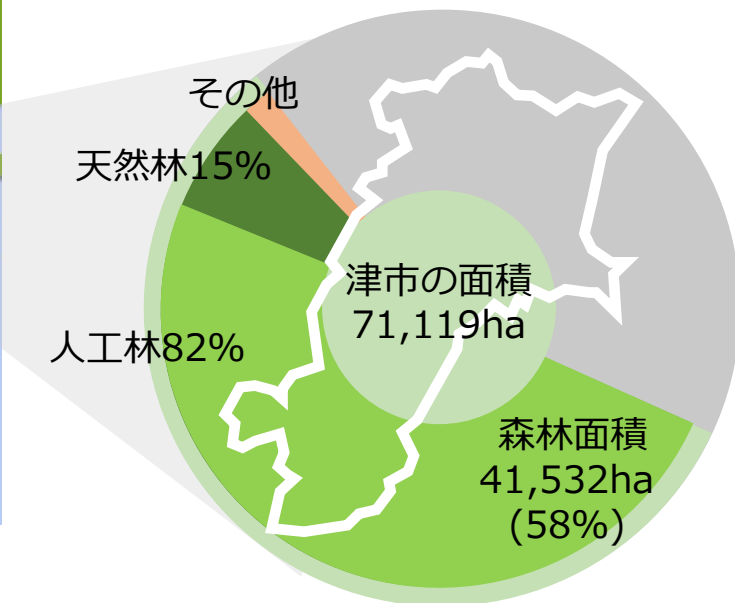


中勢森林組合は、昭和47年6月30日、それまで津市・久居市・安芸郡・一志郡にあった美杉・白山・一志・嬉野・榊原・美里の6つの森林組合が合併し、三重県下初の広域森林組合として誕生しました。



7. 津市の森林の概要と特徴

津市の森林所有者の約90%が、5ha未満という小規模所有です。

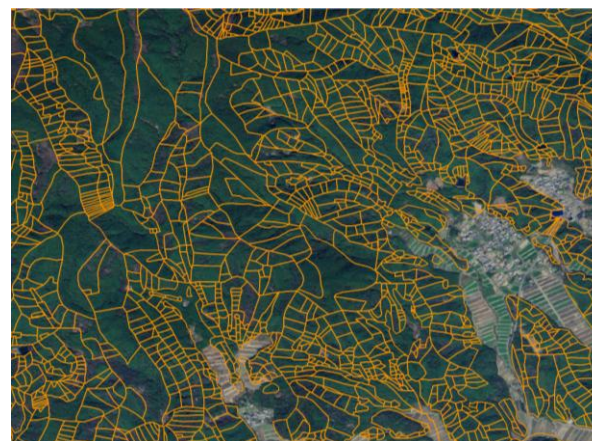


森林率 … 58%
 人工林率 … 82%
 5ha未満の森林所有者数比率 … 約90%

三重県北伊勢地域（津市以北）
 (6) 森林の所有規模別所有者数及び面積

	北伊勢			
	人数 人	比率 %	面積 ha	比率 %
1ha未満	29,861	73%	8,394.31	11%
1-5ha未満	8,654	21%	18,698.26	24%
5-10ha未満	1,329	3%	9,170.91	12%
10-20ha未満	601	1%	8,243.32	11%
20-30ha未満	162	0%	3,966.45	5%
30-50ha未満	140	0%	5,331.98	7%
50-100ha未満	89	0%	5,977.46	8%
100-200ha未満	37	0%	4,882.92	6%
200ha以上	23	0%	13,754.07	18%
計	40,896	100%	78,419.68	100%
比率	34%		22%	

出典：令和5年度版三重県森林・林業統計書



例：経ヶ峰のふもと（区画は森林計画図より）

8. 津市の森林の現状

所有者の森林離れが深刻な問題に

長引く林業の不況 → 森林所有者の意欲減退 → 森林の荒廃



- ・ 木材価格の低迷
- ・ シカなどによる獣害の拡大
- ・ 森林所有者の世代交代・地元離れ

「手入れしてもムダ」

→ → → 間伐など手入れ不足

「主伐しても植えられない」

→ → → 主伐・植林の減少

「仕方なく相続しただけ」

→ → → 境界の不明瞭化

山を持っていても
固定資産税がかかるだけだし…
できることなら手放したいなあ



山地災害に繋がる恐れも…
だから、補助金でなんとか
手入れをしたり、公共事業で
森林整備をしている状態…

9. 中勢森林組合の使命と課題

地域の森林を守り育て、未来に引き継ぐ。



もり
森林の恵みに感謝し、地球環境保全のため、豊かなもり森林を未来に引き継ごう。

(『JForest森林組合綱領』より抜粋)



私たちは、持続可能な森林資源を有効に活用し、山から街、海へと笑顔をつなぎ続けます。

(『中勢森林組合経営理念』より抜粋)

山を持っていてよかった！
地域のためにも、
この財産を守っていこう



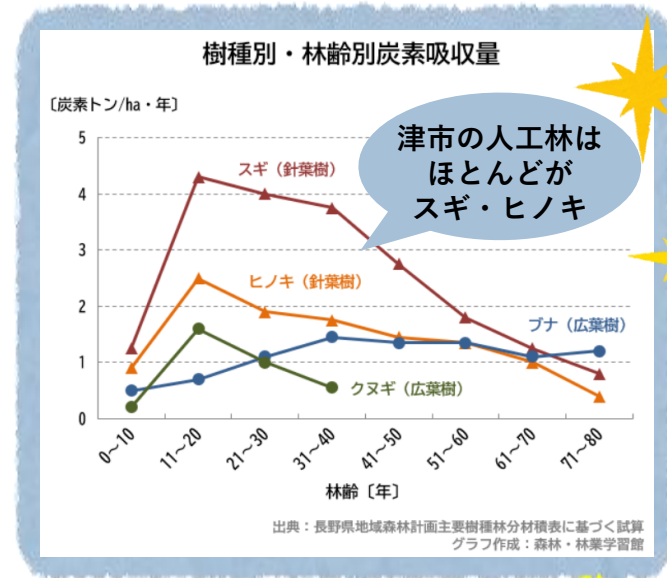
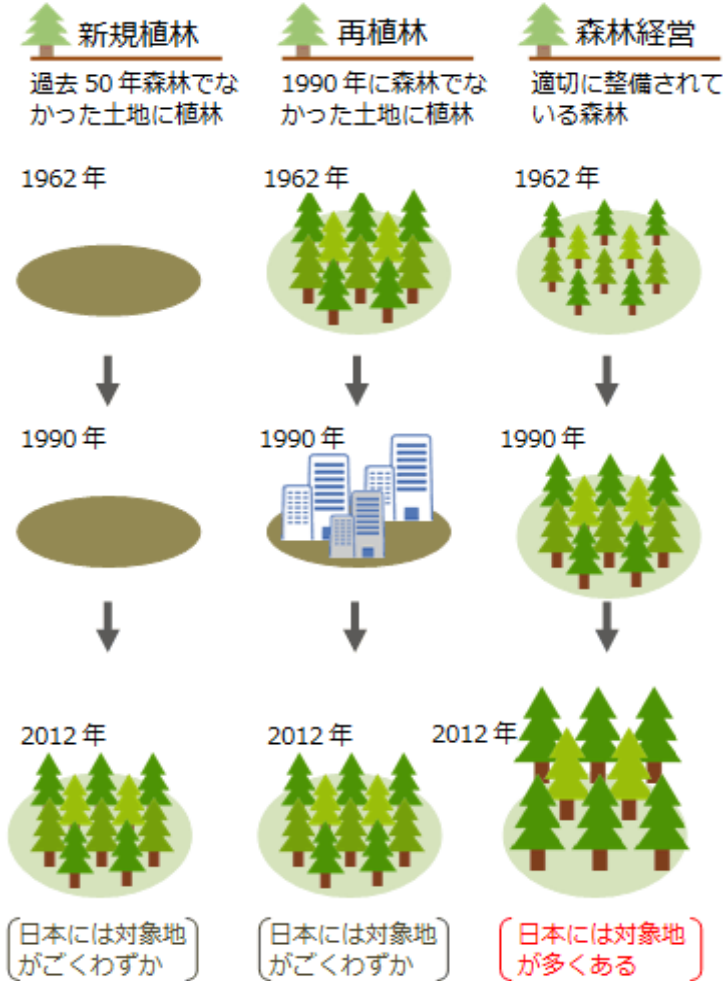
課題

森林所有者(組合員)に山への関心を取り戻してもらうために、
木材の価値だけではない**森林の新たな価値**を見出す。

10. J-クレジット・プロジェクト取組みのきっかけ

森林の新たな価値

J-クレジットを創出することができる森林の条件
(京都議定書で定義された温室効果ガス吸収源として認められる森林)



1990年以降に
森林を適切な状態に保つために
人為的な活動を行っている

森林組合が日々行っている
適切な森林管理

森林と林業の新たな価値

11. 林業のサイクルとCO₂吸収、そして、適切な森林管理とは

適切な森林管理は、CO₂吸収の面でも大きな意味を持ちます。



育てる 段階の森林は CO_2 吸収量が大きい。

収穫する 段階の森林は CO_2 吸収量が小さい。

●健全に 育てる ために 間伐 が必要。

● 主伐 をして 植林 をして 育てる … 林業のサイクルを循環させることが必須。

●収穫して出荷した木材を 適材適所で使う ことで、森林が吸収した CO_2 を固定化。

12. J-クレジット販売益の使途

創出したクレジットの収益は、森林と地域のために還元しています。



中勢森林組合J-クレジット（標準）

まずは、森林整備を支える



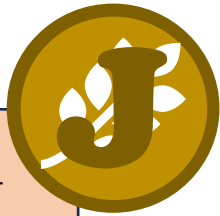
植林



間伐

間伐1ha : 60~80 t CO2
植林1ha : 800~900 t CO2

一部、森林所有者へ還元



中勢森林組合J-クレジット（オプション）

森林整備に加え、木材利用まで支える



木製品



木育・森林環境教育

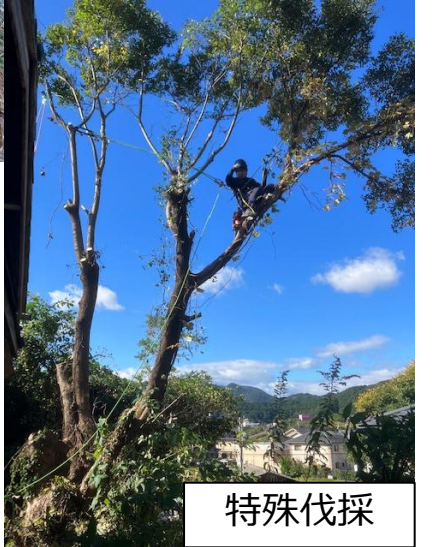
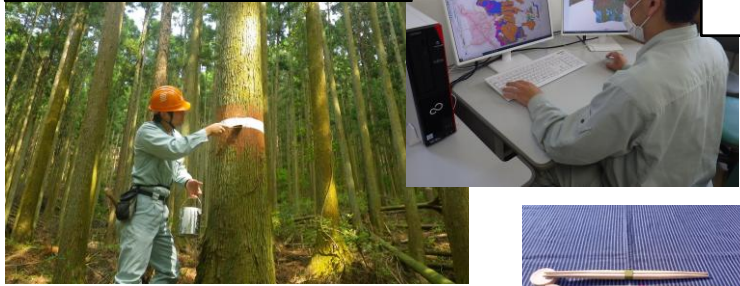
- ・社屋の木質化
 - ・木製バッジ
 - ・森林体験イベント開催
 - ・木育ブース出店
- ・・・など

13. 中勢森林組合の取組み－事業概要－

素材生産



森林・森林情報管理



14. 中勢森林組合の取組み－ネットワーク－



地域や企業の皆さまとの連携によって支えられています

カーボンニュートラル

- ・三重の自然由来カーボンクレジット活用推進に向けた連携プラットフォーム
- ・津市カーボンニュートラルの実現に向けた森林の維持管理・保全及び活用の推進に関するパートナーシップ協定

防災・減災

- ・地域自治体と災害に強い山づくり
- ・三重県山地防災ヘルパー

■ 森林の多面的機能



森づくり・森林整備

- ・三重県緑化推進協会
- ・津市森林整備協議会
- ・三重県企業の森

地域産木材利用

- ・津市木材利用促進ネットワーク「きつつき」運営委員会
- ・美杉林業研修集会施設運営協議会
- ・美杉地域産物加工販売施設運営協議会
- ・津市道の駅かわげ運営協議会
- ・地域企業様と木製品共同開発
- ・法人・個人のお客様

野生動物との共生

- ・三重県指定管理鳥獣対策協議会
- ・津市鳥獣害防止対策協議会

河川・海洋保全

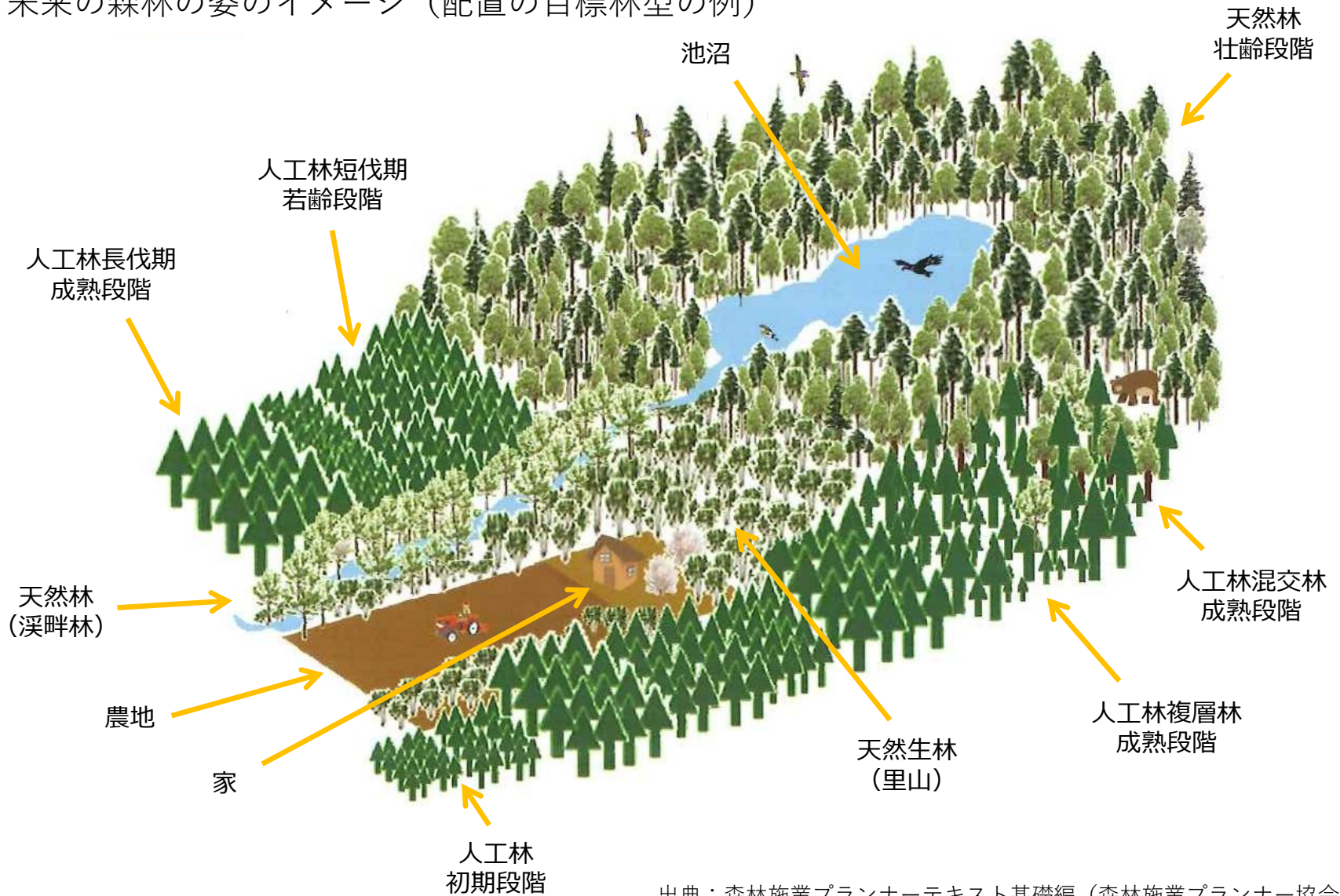
- ・三重県漁業協同組合連合会
- ・津市新雲出川物語推進委員会
- ・青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン実行連絡会

森林環境教育

- ・みえ森林・林業アカデミー運営協議会
- ・みえ森づくりサポートセンター(森のせんせい)
- ・三重県環境学習情報センター
- ・三重県立久居農林高等学校
- ・地域小中学校
- ・高田短期大学子ども学科
- ・久居こどもの遊び場づくり事業推進会議
- ・白山地区社会福祉協議会
- ・津市内商業施設

15. 地域の森林を持続的に保全するために

未来の森林の姿のイメージ（配置の目標林型の例）



出典：森林施業プランナーテキスト基礎編（森林施業プランナー協会）

16. 中勢森林組合 “三重の森からCO2吸収プロジェクト”

わたしたちは、**地域の森林を持続的に保全する**という使命のために、**J-クレジット制度**を活用した**適切な森林管理**の循環をつくりたいと考えています。

